

社団法人栃木県経済同友会御中

「新年の抱負」

今、高校教育を考える

株式会社 開倫塾

代表取締役社長 林明夫

学習塾という立場から学校や大学などでの教育を考えると、様々な改善や改革すべき点が見えてくる。栃木県社会教育委員会議、宇都宮市教育委員会学校教育制度改革を考える懇談会、宇都宮大学懇談会、栃木県市町村教育委員研修会など意見発表の機会が私に与えられた場合には、栃木県の教育の発展を願い、率直に問題の所在、その原因、対応措置、改革案を提案させて頂いている。

幼児教育、義務教育、大学は、社会の関心が深く、行政や当事者の自覚も生まれたため改革が大幅に進んでいると私には感じられる。

問題は高等教育。中学校までは健全に育っていた子どもたちが、高校に入学してしばらくすると無気力が蔓延し、勉強も全くしなくなる場合が多い。(学校外の勉強時間は、高校生の半数が0分という調査結果もある)それでいて、高校卒業後、約8割が大学・短期大学・専門学校へ進学する。

このような現状を踏まえ、多くの高校は大学進学のみを至上命題にするため、3分の2近くの落ちこぼれを生じさせる学校も多く、ますます無気力が増幅している。高校の問題は、高校だけの解決は不可能である。社会総かがりで高校教育を立て直さなければならない。地域に根ざした特色ある高校を、これからの世界、これからの日本を見据えた上で社会総かがりでつくり上げるべきと考える。

栃木県経済同友会会員も、自分の問題として高校問題と取り組むべき時期にきていると考える。